

香港大学女性協会 Julia Woo 会長が京都支部を訪問されました。

香港大学女性協会の Julia Woo 会長が、11月12日の JAUW 創立70周年記念祝賀会に海外からの来賓として出席され、その後、神戸支部の友人たちと有馬温泉にお泊りになるが、そのあと16日、17日と京都の観光を希望なさっているので、お世話をしてもらえないかと、本部の山下国際委員から廣田会員に依頼があった。廣田会員は、17日は個人的にご案内できるが、16日は都合が悪いということで、彼女から久保支部長に、その日は支部がお世話をしていただけませんか、との問い合わせがあった。支部長は、その日は丁度支部の11月例会で銀閣寺庭園の散策が予定されているので、そこにご招待して、お昼をご一緒しながらお話をさせていただき、交流のひと時を持ちましょうということになった。

送られてきた Julia Woo (呉寧) 会長の履歴書によると、彼女はアメリカの大学の心理学部を卒業し、教育学の修士号を取得したあと、1973年に香港に帰国し、それ以来34年間、香港中文大学の医学部を始め幾つかの学部の事務局長を勤め、2007年に退職。中国本土からの学部生を同大学に受け入れる組織の上級顧問として、退職後は特に、その活動に積極的にかかわっている。

香港大学女性協会 (HKAUW) との関係では、1980年に入会后、2004-2008年と2013-2015年の2度会長に選ばれ、現在は、2017年に創立60周年を迎える協会の新しい会長を選出するまで会長代行として活躍している。その間、国際委員、地域社会奉仕活動調整委員も務めた。

Woo 会長が京都で何をなさりたいのかを前もって知りたいと思い、会長は携帯をお持ちではないということで、連絡係の松村理事の携帯に電話をするが、いつも留守電で、返事なし。しかし15日の夜やっと連絡が入り、16日の朝11時に新幹線京都駅に到着するので、出迎えをよろしく、列車に乗り込んだあと何号車に乗ったかをお知らせする、とのことだった。こちらからは国際委員の阪田・中川がプラットホームでお待ちする。会長の名前を書いた旗を持って行くが、彼女にはなにか目印になる特徴はあるかとお聞きすると、黒縁のメガネをかけた小柄な方だとのこと。

プラットホームで無事彼女を見つけ、タクシーで京都東急ホテルに行き、荷物を預け、銀閣寺道のお食事どころ「はしもと」に直行した。銀閣寺庭園の散策を終えた会員が帰ってきて、全員14名が揃ったところで、お食事が始まった。会長は天ぷら、刺身はご存じで、香港でも時々召し上がるとかで、大変おいしいとおっしゃっていた。食事が終わったところで、久保支部長が会長の紹介をして、会長の話が始まった。以下がその要約である。

Julia Woo 会長のお話

私は香港大学女性協会会長の Julia Woo です。本日は京都支部の例会に お招きいただき大変感謝しています。私は JAUW 創立 70 周年記念祝賀会に海外からのただ 1 人の来賓として招待されました。実は香港大学女性協会は来年 2017 年に創立 60 周年を迎えます。そのことを JAUW 会員の皆さまにお知らせする目的もあって出席いたしました。

現在大学女性協会は世界的に会員の高齢化、会員数の減少で、その活動が危機的な状況にありますが、香港大学女性協会も例外ではありません。香港では若い世代の女性は殆どが仕事をもっているため、それも若い女性が入ってこない理由の 1 つです。現在会員数は名目的には 500 名ほどですが、実質活動しているのは 100 名ほどです。支部はありません。

私はいままで香港大学女性協会の会長を 2 度務め、この問題に頭を悩ませてきました。私の考えでは、この問題の原因の 1 つは、若い世代と年を取っている世代との間の意思疎通ができていないことではないかと思われます。私はいま協会の 60 周年記念祝賀大会の準備で忙しくしていますが、その行事に、アジア大学女性協会の会員が参加するワークショップを加えています。そこではどうすればこの意思疎通のなさの問題を解決して、若い世代の女性に入会してもらえるかを話し合いたいと思っています。

60 周年記念祝賀会には、現在イギリス、カナダ、その他多くのアジアの大学女性協会会員の参加が決まっています。日本からもすでに 10 名が参加して下さることが分かっています。ケープタウンと違い、香港は 3 時間半ととても近い場所にありますので、どうぞ京都支部からも参加して下さるようお願いいたします。ご清聴をありがとうございました。

Julia Woo 会長・・銀閣寺散策とお買い物

会長のお話しが終わり、久保支部長のお礼の挨拶のあと、会は解散となった。会長に何をなさりたいかを聞くと、寺院拝観と、自分は書と墨絵が趣味なので筆と紙が買いたい。それと日常使う大ぶりの茶碗がほしい、ということだった。彼女は京都は初めてなので、金閣寺、竜安寺か、二条城にお連れしようと思ったが、銀閣寺庭園を散策した皆さんのお勧めで、改装なった世界文化遺産・銀閣寺の庭園散策に出かけた。素晴らしい秋晴れの午後、彼女は赤から黄までさまざまな色の美しい紅葉に感動して、写真を撮り続けていた。香港では秋は最低気温 15 度ぐらいだから、このような美しい紅葉は見られないとの事だった。

そのあと、筆、紙、茶碗を買うために、寺町二条に行き、そこで中村・松尾・多田会員

が合流して、彼女の買い物のお手伝いをして下さった。紙、筆を買った「柿本」が450年の歴史を持つ老舗だと知ると感動していた。私がなぜ中国が本場の筆や紙を日本で買うのかと聞くと、中国共産党は自国の伝統工芸の保存振興には全然熱心ではなく、粗製乱造の品を平気で輸出している、と中国の現状を嘆いておられた。大き目の茶碗については、明るい臙脂の辰砂のうわぐすりが全体にかかった抹茶茶碗が気に入り、それを買った。それは使わないで、部屋に飾っておくとのことだった。買い物にすっかり満足なさったようで、そのあと一保堂の喫茶室で、お薄と和菓子をいただき、5時頃お別れをした。ずっとおしゃべりも続けてもお疲れの様子もなく、来年の60周年記念大会には是非来てください、と繰り返しおっしゃりながら、お帰りになった。

彼女は見るものすべてに関心があり、さまざまなことを聞かれた。たとえば、銀閣寺では多くの修学旅行生徒のグループがいたが、全員お行儀がよく、交通道徳をよく守って、整然と歩いているのに感心したらしく、日本の子供は何歳くらいから行儀を習うのか、と聞かれ返答に困った。

Woo 会長が来日する直前に、香港独立を標榜する政党の議員2人が選挙に当選したが、中国が、香港議会の頭越しに、彼らの資格を取り消す判断をした事件があり、香港では中国不信が広がっていると新聞で読んだが、と彼女に聞くと、中国からの独立論は主流ではないが、中国との約束で、「一国二制度」のもとで香港の資本主義と高度の自治が保障されているが、中国が膨張主義路線を取っていくなかで、いつまで守られるのか心配になる、とおっしゃっていた。お別れをする直前に、あの2人の議員は香港議会からも追放されたと今スマホに知らせが入った、と彼女から知らされた。急速に中国が強国になっていくのは本当に怖いことだろうと思う。